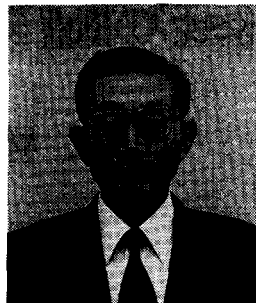


会長退任のごあいさつ

筑波大学 森村 英典



一昨年の総会で会長のお役を仰せつかってからもう2年が経ち、退任のご挨拶をすることになりましたが、本当に月日の経つのは早いということに改めて実感致しております。この2年間、私自身の身辺多忙を口実に、ほとんど学会の役に立つようなことをしないままに任期を終えてしまい、会員の皆様には申し訳ないと存じております。

2年前にこの役をお引受けするさい、本誌上でさせていただいたご挨拶の中で、私は学会運営の基本方針として「長期計画の実施」を挙げ、昨年の年頭のご挨拶のときには、学会間の交流元年ということばを出して、学会間・学会内の交流の活発化につとめたいということを申しましたが、これらについて、胸を張って威張れるほどの成果は挙げられませんでした。私のやったことではありませんが、この機会に、この2年間の学会の足跡を少し辿ってみたいと存じます。

日本経営工学会や日本品質管理学会などFME S関係の諸学会とは、かなり密接に協議もし行動も共にしました。特に、学術会議関連の仕事として、「経営工学の体系化に向けて」という研連の報告を公けに致しましたが、これは4学会から選出された委員の熱心な討議の末にできたもので、そのご努力には深く敬意を表するものですが、これを拝見して、改めてOR学会を今後ますます発展させる社会的責任を感じました。

学術会議関係では、当学会から会員にご推薦した近藤先生が第14期も引続き会長を勤められ、わが国の学術の発展に日夜奮闘されていますし、OR学会前会長の松田先生も当学会からのご推薦を基盤に学術会議会員としてご活躍いただいております。その他数人の当学会員の方が学術会議会員

となられ、OR学会の「公的地位」はますます向上している状況です。

そのような状況の下で、かねてからの課題であった「科学研究費補助金審査の分科・細目の新設」も、来年度からは陽の目を見ることになりそうです。このことが、会員の皆様の研究活動の支援につながることを心から期待しております。特に、若い研究者にとって大きな活力を与えることを祈っております。

また、一昨年秋の研究発表会は日本経営工学会と同時に開催しましたが、それが契機になって同学会との共同の研究部会が発足し、今年秋にはその研究部会が中心になった両学会の合同シンポジウムが計画されています。学会間の協力もだんだん地についたものになっていくと期待できるでしょう。

本学会の会員数も急速とはいいかねますが、賛助会員を含めて着実に増えており、その裏には、「OR企業サロン」の成功といった、担当の方の並々ならぬご努力があります。国際的な活動もずいぶん増え、特にアジアでの日本OR学会の責任はますます重くなると思われます。

このように本会は順調に運営されておりますがそれは、役員・幹事・委員の方々や関口事務局長以下の事務局の方々の献身的なご努力によって支えられていることを、広く会員の皆様にお伝えするとともに、これらの方々に深甚な謝意を表しまして私の退任のご挨拶とさせていただきます。